

# 被災者支援活動ニュース

日本共産党鳥取県委員会震災対策本部

現地事務所 湯梨浜町田後 302-6

電話・FAX(0858)35-3639

党ボランティア活動に毎回参加した足羽祐太さん(29歳)が、自らの想いをニュースにしました。本人の了解のもと、そのまま紹介します。



12月16日、日本共産党の災害ボランティア5名は、鳥取中部地震でも被害の大きかった、倉吉市中心の白壁土蔵群周辺を視察した。この日は、国会審議を終えたばかりの大平衆議院議員も駆けつけ、被災地の現状を視察し、「国政に声を届ける」と決意を見せた。

平成28年12月16日発行

【発行者】

足羽 佑太

地震被害の視察に先立って、ボランティアは、地元の子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」と、居場所やコミュニティスペースの確保を目的に作られた



子ども食堂を視察

「ほっとここ」の取り組みを視察。

2016年11月のオープンを目指していたが、今回の地震によって、コミュニティスペースの壁や屋根瓦が壊れてしまい、(公財)とっとり県民活動活性化センターが運営する、地域密着型クラウドファンディングサイト「FAAVO

(ファーボ)鳥取」で不特定多数の支援者を募って資金を集めた。

子どもの個食、孤食がいわれ、とりわけ今回の地震では学校給食が停止する中、あたたかいごはんの提供と、話し場の確保は、子どもたちに笑顔を与えてくれようだ。

## 被災地の声、国会へ

# 大平衆議院議員来県し、被災地激励

12月16日、日本共産党が主催・募集したボランティア団は、鳥取中部地震でも比較的被害の大きかった倉吉市の白壁土蔵群周辺を視察し、周辺の住民や商店などから、地震の被害や不安、行政への要望を聞き取った。15日未明に、衆議院で自民公明維新により国内でのカジノを可能とするIR法案が強行採決され、その審議を終えたばかりの大平善信衆議院議員(比例、中国ブロック)も、参加。剥がれ落ちた白壁や、ブルーシートで覆われた住宅被害を目の当たりにし「一部損壊が深刻」「30万円の支援では足りない。国は支援をしていく必要がある」と述べた。

被災者からは、「市は何もやってくれない」「罹災証明がまだ発行されない」との不満も漏れ、一部損壊が広範囲に及ぶ本地震で、被災者に対し決め細やかな説明と配慮をする必要性を示した。



剥がれ落ちた壁(白壁土蔵群)

鳥取中部地震から一ヶ月が経ち、余震は少なくなつた。災害復旧や避難所運営に当たられた方には、心より敬意を表したい▼街は落ち着きを取り戻したかに見えるが、冷静に俯瞰すると、災害時の課題が多く明らかになってきた。たとえば福祉避難所の問題。避難者の殺到を恐れ、避難所の周知を積極的に行っていないあたり、個人情報、であるリストの扱いに苦慮する自治体も。県は「手話言語条例」を全国に先駆けて制定し、あいさずぽーと運動一で障がいのある人も無い人も、暮らしやすい県を目指している。災害時弱者への対応が急務だ▼県は、家屋の一部損壊に対して30万円、それ以下の損壊に対しては、見舞金の支給を決めた。この決断は重要な一歩と評価される一方、被災者の方から多く聞かれたのは、「これではとても足りない」との声だ。瓦、擁壁、墓石。後二者には支援が及ばず、被災者の持ち出しになる▼被害の大きい倉吉市では、罹災証明の発行の遅れも目立った。また、主として外観で被害の大きさを推測・判定する二次調査の後、この結果に不服がある場合、被災者の申請ベースで行われる、内部を含めた二次調査がある。仮に二次で一次より低い結果が出た場合、二次の結果が優先され、判定や支給額が下がるケースも。これでは、調査を受けるのを躊躇してしまうはず。国は、二次まで受けた場合、どちらを採用するか基準を設けておらず、自治体に委ねられている。熊本地震では、大きい方を採用する自治体も相当数あったよう。被災者本位の制度設計を望みたい。